

研究成果情報

令和3年度

アイリス「ブルーマジック」の切り前と品質保持剤前処理が切り花の観賞性に及ぼす効果		
[要約] アイリス「ブルーマジック」切り花において、 <u>品質保持剤を前処理</u> すると、固い切り前でも水生け後の <u>開花率</u> は2倍以上に向上する。		
新潟県農業総合研究所園芸研究センター 育種栽培科	連絡先	TEL 0254-27-5555 FAX 0254-27-2659

[背景・ねらい]

アイリス切り花は咲き進みによる市場クレームを避けるため、固い切り前で収穫される傾向がある。しかし、切り前が固いと開花に至らないこともあるため、産地では開花率向上に効果のある品質保持剤処理(500～1,000 倍の濃度で一晩処理)が普及しているが、切り前と処理濃度の関係は明らかになっていない。そこで、切り前と品質保持剤の処理濃度がアイリス切り花の観賞性に及ぼす影響を明らかにする。

[内容]

- 1 切り花収穫後、水あげ時に品質保持剤を 16 時間程度前処理することにより、開花が早まる(図2)とともに、固い切り前でも(図1)開花率が2倍以上向上し、水生け後の日持ち期間も延長する(図3)。
- 2 前処理剤の処理濃度は、500 倍から2,000 倍までの間では、切り前に関わらず、開花率や日持ち期間に差はみられない(図3)。処理コストを考慮すると濃度は 2,000 倍が適当である。

[導入効果]

- 1 開花率や日持ち性の向上により、県産切り花のブランド力が向上する。
- 2 前処理コストの低減が図られる。

[導入対象]

農業普及指導センターおよびアイリス切り花生産者

[留意点]

- 1 切り前1cm(緩切り: 苞葉先端からの花蕾先端の位置が5～15mm)と2cm(固切り: 同 16～24mm)の切り花を、収穫した当日に前処理を行った結果である。
- 2 品質保持剤は C 社製の球根切り花用前処理剤を用い、5℃の冷蔵庫内で 16 時間程度吸液処理をした。
- 3 日持ち日数は、流通シミュレーションとして5℃で3日間乾式保管後、室温20℃・相対湿度60%・12時間日長の室内で検定した。
- 4 品質保持剤の短時間処理は未検討であり、処理時間短縮は現場検証のうえ行う。
- 5 市場着荷時に出蕾しているとクレームの対象となることがある。切り前は収穫時期の気温等により変動するので、事前に出荷先市場等と検討しておく。

[具体的データ]

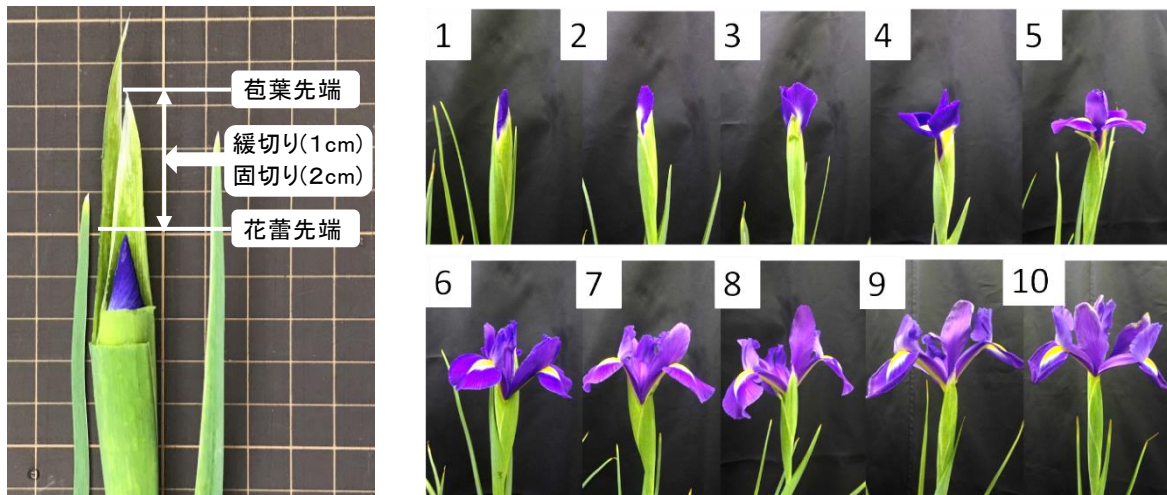


図1 アイリス「ブルーマジック」の収穫時切り前および開花ステージ

注1 切り前は苞葉先端から花蕾先端までの長さ(図では花蕾の位置がわかりやすいように苞葉側面を除去している。)
 注2 0:未出蕾期、1:出蕾始期、2:出蕾期、3:展開始期、4:展開中期、5:外弁展開、6:内弁分離始期、7:内弁分離、8:満開、9:外弁萎凋始期、10:全花被萎凋

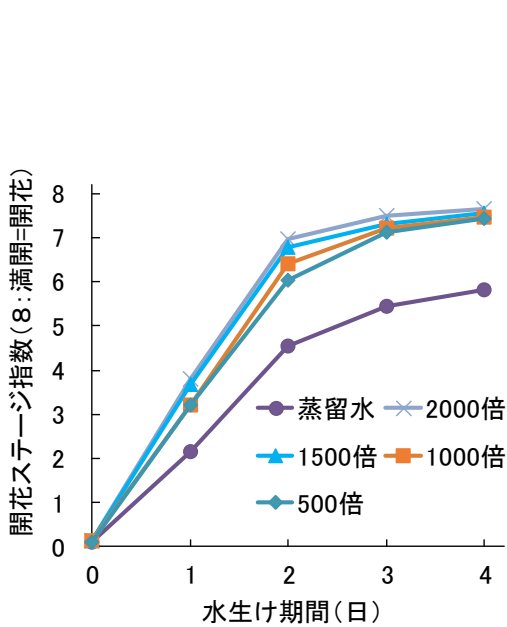


図2 前処理剤濃度が水生け後の開花ステージに及ぼす影響

注1 令和元年度及び令和2年度に行った試験データ。
 注2 開花ステージ8までの平均値。

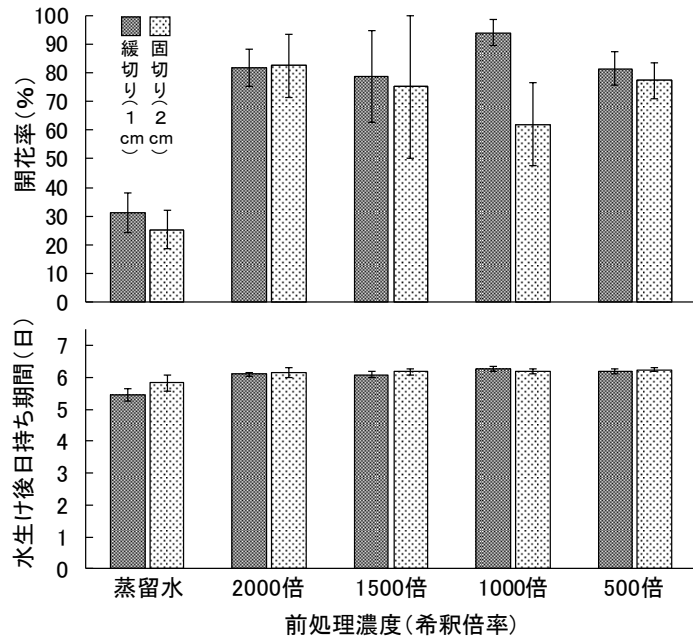


図3 切り前と前処理剤濃度が開花率と日持ち期間に及ぼす影響

注1 令和元年度及び令和2年度に行った試験データ。
 注2 開花率は開花ステージ8まで到達した個体の割合。
 注3 エラーバーは標準誤差。

[その他]

研究課題名:花き生産を支援する生産・流通技術の開発

予算区分:1 県単経常

2 外部資金(新潟県花き振興協議会事業)

研究期間:1 平成30~令和2年度

2 令和1~2年度

発表論文等:なし